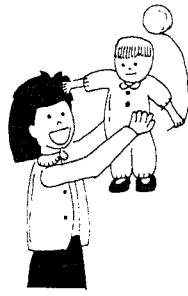


子どもの心シリーズ (7)

おんぶにだっこ



都留教育推進会議の家庭教育部会では、十一月より「子育てセミナー」を行っております。「子育てセミナー」は子育て最中のお母さん方に集まって頂いて、乳幼児の子育てについて考えようという趣旨で行う事業です。「子どもの心シリーズ」は途中ですが、「子育てセミナー」と関係づけていきたいと考えます

「子育てセミナー」にだされた問題を整理してみますと、発達課題に係わる事が多かったのです。発達課題ということは、人間が成人になるまでに身に付けなければならぬことなのです。この発達課題を身に付けないと後後問題がでてくると思われまます。

生れたばかりの乳児期の発達課題は母親や家族などに信頼感・満足感を持てるようにすることです。赤ちゃんが信頼感・満足感をまわりの人に持つことは、乳児の基本的欲求です。この基本的欲求を満

たしてやるのが大切です。

この信頼感・満足感を持てるようにするには、泣いていたら抱いてやることです。母親や家族が、やさしく話しかけながら目を見て、おだやかに抱いてやると赤ちゃんは満足して泣き止みます。また、おなかが空いて泣いて泣くのだからと思ったら、抱いて母乳をゆっくり与えると泣き止みます。おむつがぬれて気分がよくなくて泣いていたら、きれいなおむつに替えることです。そして静かに抱いて、あやしてやることです。あまり抱くと、抱きぐせがついて大変だと思いきみ、乳児をベビーベッドに寝かせたまま哺乳びんを口にくわえさせるというような事は、してはいけません。人工乳でも母乳は抱いていなければいけません。

次に赤ちゃんを「おんぶ」するということは、赤ちゃんを運ぶことではありません。赤ちゃん、母親、父親、おじいさん、おばあさん、兄さん、姉さんとの暖かいふれあいです。また、添い寝もたくさんしてやりたいものです。そうすることで家族への信頼感・満足感を身につけていくのです。

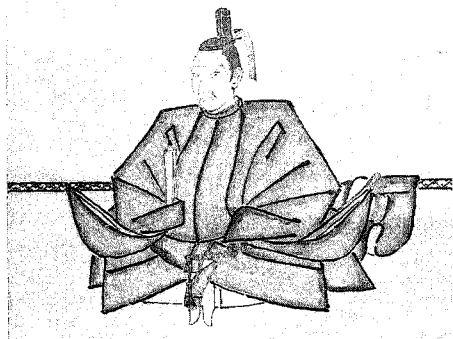
あるアメリカの心理学者は、日本へ来て、日本のお母さんが赤ちゃんをおんぶしているのを見て、すばらしい、すばらしいと言ったそうです。こんなよい習慣を守りつづけてほしいものです。

教育相談室 (43) 1111

内線 214

城下田中と秋元三代の業績

第八回 秋元但馬守喬知 (1)



秋元但馬守喬知(朝)画像

表一 (建築関係事業)

建 造 物	建築年月日	備 考
江戸城三ノ丸造営	元禄二年(一六八九)十一月二十七日	喬知総奉行となる
浅草寺観音堂(本堂)修復	元禄五年九月十八日	同 右
東叡山中堂造営	元禄十一年八月二日	同 右
敝有院殿(家綱公)仏殿修造	元禄十二年三月九日	喬知修造に参与する
禁裏(院ノ御所)造営	宝永五年(一七〇八)三月十四日	喬知普請奉行となる
文昭院殿(家宣公)御霊屋造営	正徳二年(一七二二)十月十四日	同 右

『両谷村』(森島其進草稿)に、「内裏炎焼ノ時寛文元丑年秋元但馬守御普請奉行トシテ上京、平左衛門が子善兵衛棟梁大工トシテ召シツレル・・」とありますが、この時喬知は十三歳ですので宝永五年の誤りでしょうか。

秋元喬知(朝)は慶安二年(一六四九)に岩槻城主戸田忠昌の嫡男(母は富朝の女)として生まれましたが、九歳の時両家の約束により母の実家秋元家の養子となりました。

はじめ甚九郎、喬朝といい、明暦三年(一六五七)十月二日富朝の遺領を継ぎ、同五日四代將軍家綱公(敝有院)に拜謁を賜わり、江戸城伺候の間を雁の間と定められました。

万治三年(一六六〇)十月二十八日従五位下但馬守に叙任し、寛文五年(一六六五)十二月撰津守に改めましたが、後再び但馬守と称しました。

喬知は延宝五年(一六七七)七月三日奏者番(江戸幕府職名)、天和元年(一六八一)十一月二十九日寺社奉行(神社仏閣の雑務訴訟を司る)、同二年十月十六日若年寄(老中に次ぐ重職、小老)、元禄十二年(一六九九)十月六日老中(大老に次ぐ江戸幕府の重職、中老)に進み大奥のことも関与しました。

正徳四年(一七一四)二月喬知が月番老中の時、江戸城大奥年寄江島と中村座俳優生島新五郎の事件を裁きました。

秋元氏は長朝・泰朝・富朝の業績にみられるように、代々土木・建築の技術に優れていました。喬知もまた数多くの業績を残しております。その主なる事業は「表一」及び「表二(次回説明)の通りです。

ふるさとの祭

- 1月14日 道祖神祭礼(どんどん焼き・サイの神) 市内各地
- 15日 成人式 文化会館
- 石船神社祭礼(護良親王の御首級・宝刀の公開)
- 16日 十王まいり(初閻魔・えんままつり・やぶ入り) 深泉院他市内各地
- 17日・20日・21日 山の神 市内各地
- 25日 天神講 金井・小形山・沖・与繩他各地